

# 川崎市地震被害想定調査

## 報告書 (概要版)

平成22年3月

川崎市

## 目 次

1. まえがき	1
2. 調査概要	2
3. 被害想定結果	4
(1) 川崎市直下の地震	4
(2) 南関東地震	9
(3) 東京湾北部地震	14
4. 区別被害想定結果	19
5. 調査体制	22

## 1. まえがき

平成7年(1995年)1月17日に発生した兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)は、現代社会が初めて遭遇する大災害として、コンクリートビル・高速道路・鉄道をなぎ倒し、木造住宅を焼き、6,400名を超える方の貴重な命を奪いました。その後も、我が国では、芸予地震(2001)、十勝沖地震(2003)、新潟県中越地震(2004)、福岡県西方沖地震(2004)、能登半島地震(2007)、新潟県中越沖地震(2007)が発生し、多くの命が失われました。

これまで川崎市では、川崎市地域防災計画や川崎市震災対策行動計画によって地震対策を着実に進めてきたところですが、さらに大規模地震が発生した際の被害の軽減をより具体的に図るため、今後軽減する被害量を「減災目標」として定め、その目標を達成するために必要な対策の数値目標や減災効果(被害軽減量)、達成時期を示した「川崎市地震防災戦略」を策定することによって、地震対策の施策効果を可視化することを市の政策方針としました。

川崎市では、昭和63年度、平成8年度に地震被害想定結果を公表しています。今回の地震被害想定調査は、この川崎市地震防災戦略を策定するための基礎資料とすることを目的として行い、被害想定手法等もこの目的に合うよう、川崎市内の社会情勢の変化などを考慮して、最新の知見や研究の成果を取り入れて実施しました。

本書は、市民の皆様や市内に所在する事業所あるいは防災関係機関の方々が、防災対策を実施する際の参考として、また防災への意識向上の助けとなるよう、地震被害想定調査の概要について、大まかにわかりやすくまとめたものです。

本書を活用していただき、皆様の御家庭や地域、事業所での地震対策を進めていただければ幸いです。

なお、今回の調査は、川崎市防災対策検討委員会地震被害想定・地震防災戦略部会の御指導のもとに実施いたしました。また、基礎データの作成にあたっては、各関係機関の皆様に御協力をいただきましたので、ここに謝意を表します。

## 2. 調査概要

川崎市地震被害想定調査の概要について、説明します。

### 被害想定の対象地域

被害想定調査の対象は全市域としました。原則として、市内全域を1辺約250mのメッシュに区分して、それぞれを単位として被害想定を行い、区単位で結果をとりまとめました。

### 被害の想定条件

本概要版で示した被害の想定条件は次のとおりです。なお、今回の調査では、このほか冬の5時、夏の12時についても想定していますが、ここでは、概ね全ての項目で被害が最大となり、交通機関や繁華街に滞留している人が多い想定条件での結果を示しました。

- ① 季節 : 冬                      ② 日 : 平日                      ③ 発生時刻 : 18時
- ④ 風向・風速 : 北・5.8m/s

### 想定地震

今回の調査の想定地震は、国の中央防災会議や地震調査研究推進本部の最新の成果、及び神奈川県が行った地震被害想定調査\*における想定地震を参考にして、次の3つの地震としました。

\*神奈川県地震被害想定調査(2009)

#### ① 川崎市直下の地震 (マグニチュード(M) : 7.3)

<発生した場合、川崎市への影響が最も大きい地震として、本市の直下で地震が発生することを想定しました。また、地震の規模(M)についても兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)や東京湾北部地震と同等(M7.3)の大きさを想定しています。>

#### ② 南関東地震 (マグニチュード(M) : 7.9)

<1923年に発生した大正関東地震(関東大震災)の再来を想定しました。関東地方で発生する地震としては最大規模の地震となることから、この地震を選びました。>

#### ③ 東京湾北部地震 (マグニチュード(M) : 7.3)

<国が想定している南関東地域のM7クラスの地震の中でも、特に首都圏全体に対する影響が大きく、国の地震防災戦略の対象となっていることから、この地震を選びました。>

## 調査結果の概要

調査結果の概要は次のとおりです。(被害数は一部を除き、一の位で四捨五入の作業を行っています。)

種別	被害項目	被害単位	川崎市直下の地震	南関東地震	東京湾北部地震
斜面・河川	急傾斜地崩壊	危険性が高い急傾斜地(箇所)	310	80	60
	河川堤防被害	被害率(%)(多摩川・鶴見川)	21	5	7
建物	揺れによる建物被害#	全壊数(棟)	32,940	8,390	6,670
		半壊数(棟)	54,710	27,990	23,490
	液状化による建物被害	全壊数(棟)	640	520	510
		半壊数(棟)	1,340	1,070	1,050
	急傾斜地崩壊による建物被害	全壊数(棟)	280	80	70
		半壊数(棟)	650	190	170
	津波による建物被害	全壊数(棟)	0*	0	0
		半壊数(棟)	0*	0	0
被害合計	全壊数(棟)	33,860	8,990	7,260	
	半壊数(棟)	56,700	29,240	24,710	
地震火災	出火	出火件数(件)(冬18時)	250	50	50
	延焼	焼失棟数(棟)(冬18時)	17,370	3,720	3,560
人的被害	死者	死者数(人)(冬18時)	1,140	290	240
	負傷者	負傷者数(人)(冬18時)	19,730	6,480	5,370
	り災世帯	全壊世帯(世帯)	86,790	22,690	18,520
		半壊世帯(世帯)	142,850	77,460	66,240
焼失世帯(世帯)		47,520	9,770	9,480	
ライフライン	上水道	断水世帯数(世帯)(1~3日後)	414,850	217,090	179,540
	下水道	機能支障世帯数(世帯)(1~3日後)	263,400	149,170	128,010
	通信	不通台数(台)	175,930	61,780	54,890
	電力	停電件数(件)	329,660	115,770	102,850
	ガス(都市ガス)	供給停止件数(件)	403,930	0	0
交通	道路橋	大規模損傷(箇所)	7	0	0
	鉄道	不通路線(路線数)(1日後)	8	1	0
	港湾	被害バース(バース数)	14	14	6
生活支障等	避難者	避難者数(人)(1~3日後)	414,720	179,520	151,320
		避難者数(人)(28日後)	204,710	53,850	47,410
	医療機能	来院者数(人)(1~3日間・冬18時)	19,780	6,490	5,380
	災害用トイレ	需要基数(基)(1~3日後)	4,150	1,800	1,510
	災害廃棄物	発生量推計値(千トン)	3,696	1,609	1,332
	自力脱出困難者	(人)(冬18時)	610	150	120
	エレベータ停止	停止台数(基)(冬18時)	5,930	5,280	5,300
	帰宅困難者	川崎市から帰宅(人)	443,410		
		川崎市へ帰宅(人)	502,340		
経済被害	直接経済被害額(億円)(冬18時)	53,067	25,607	20,857	

\*「川崎市直下の地震」の津波は本調査では想定していません。ここでは「東京湾北部地震」と同程度と想定しました。

#揺れによる建物被害は、本調査では構造被害を基準(大破・中破)として想定していますが、ここでは自治体基準により算定した結果(全壊・半壊)を示しました。

### 3. 被害想定結果

#### (1) 川崎市直下の地震

＜ **震度** ＞ 川崎市内においては、震度5強～7の揺れになると想定され、市内のほとんどの地域で震度6弱以上の揺れになると想定されます。震度7となる地域が、中原区、高津区の一部の地域にあり、幸区、中原区、高津区ではほとんどの地域が震度6強となり、川崎区、宮前区も大半は震度6強の揺れになると想定されます。多摩区、麻生区のほとんどの地域は震度6弱ですが、一部には震度6強となる地域もあります。震度5強にとどまる地域は非常に限られた所だけに想定されています。

**\* 被害 \*** 市内全域に被害が及ぶと想定されますが、特に高津区以南の地域で被害が大きくなると想定されます。

＜ **人的被害** ＞ 市内での人的被害は、死者1,140人、負傷者19,730人と想定されます。要因別の被害の内訳（死者）は次のとおりです。

- ・建物被害：死者830人。なお、最大は冬5時の場合に850人。
- ・急傾斜地崩壊：死者10人。なお、最大は冬5時の場合に20人。
- ・屋外落下物：死者数人程度。
- ・家具転倒：死者20人。なお、最大は冬5時の場合に40人。
- ・ブロック塀等の倒壊：死者20人。
- ・火災：死者260人。
- ・津波：死者は発生しない。なお、最大は冬5時の場合に数人程度。

＜ **救出** ＞ 救出が必要となる自力脱出困難者は、市内で610人と想定されます。建物被害の大きい地域では、中原区で160人、川崎区で140人の自力脱出困難者が発生すると想定されます。なお、自力脱出困難者が最大となるのは冬5時の場合で、市内で670人です。

＜ **避難者** ＞ 建物被害、断水、エレベータ停止(停止台数は、地震直後に市内で5,930台)による地震発生1日後の避難者数は、およそ41万人、市の人口の約30%と想定されます。地域でみると川崎区、中原区の各区が約8万人(川崎区では人口の約30%、中原区では人口の約37%)と多く、幸区、高津区、宮前区の各区では約6～7万人の避難者が想定されます。

＜ **帰宅困難者** ＞ 地震直後には、鉄道の路線点検等により不通となるため、帰宅困難者が発生します。川崎市内から市外へ帰宅する帰宅困難者は約44万人、市外から川崎市内へ帰宅する帰宅困難者は約50万人に達すると想定されます。

＜ **建物** ＞ 建物の被害は、市内で全壊棟数が33,860棟(全建物の14%)、半壊棟数が56,700棟(全建物の23%)と想定されます。このうち、揺れによる被害が最も多く、全壊は32,940棟(被害全体の85%が木造の建物)と想定さ

れます。地域でみると、最も被害が多いのは、全壊が川崎区で 8,400 棟、次いで中原区で 7,490 棟と想定されます。急傾斜地崩壊による被害は、市内で全壊が 280 棟と想定されます。

＜急傾斜地崩壊＞ 急傾斜で崖崩れの生じる可能性が高い地点は、市内で 310 箇所に達すると想定されます。

＜液状化＞ 川崎区の沿岸部や多摩川沿いの地域で液状化の可能性がかなり高いと想定されます。また、幸区、中原区、高津区の低地部や多摩川沿いの地域でも液状化の可能性がかなり高いと想定されます。

＜火災＞ 出火件数は、市内で 250 件と想定されます。出火地点は市内全域にわたりますが、中原区が最も多く想定されます。焼失棟数は市内で 17,370 棟と想定されます。地域でみると、最も被害が多いのは川崎区で 5,390 棟、次いで中原区で 4,160 棟の焼失が想定されます。

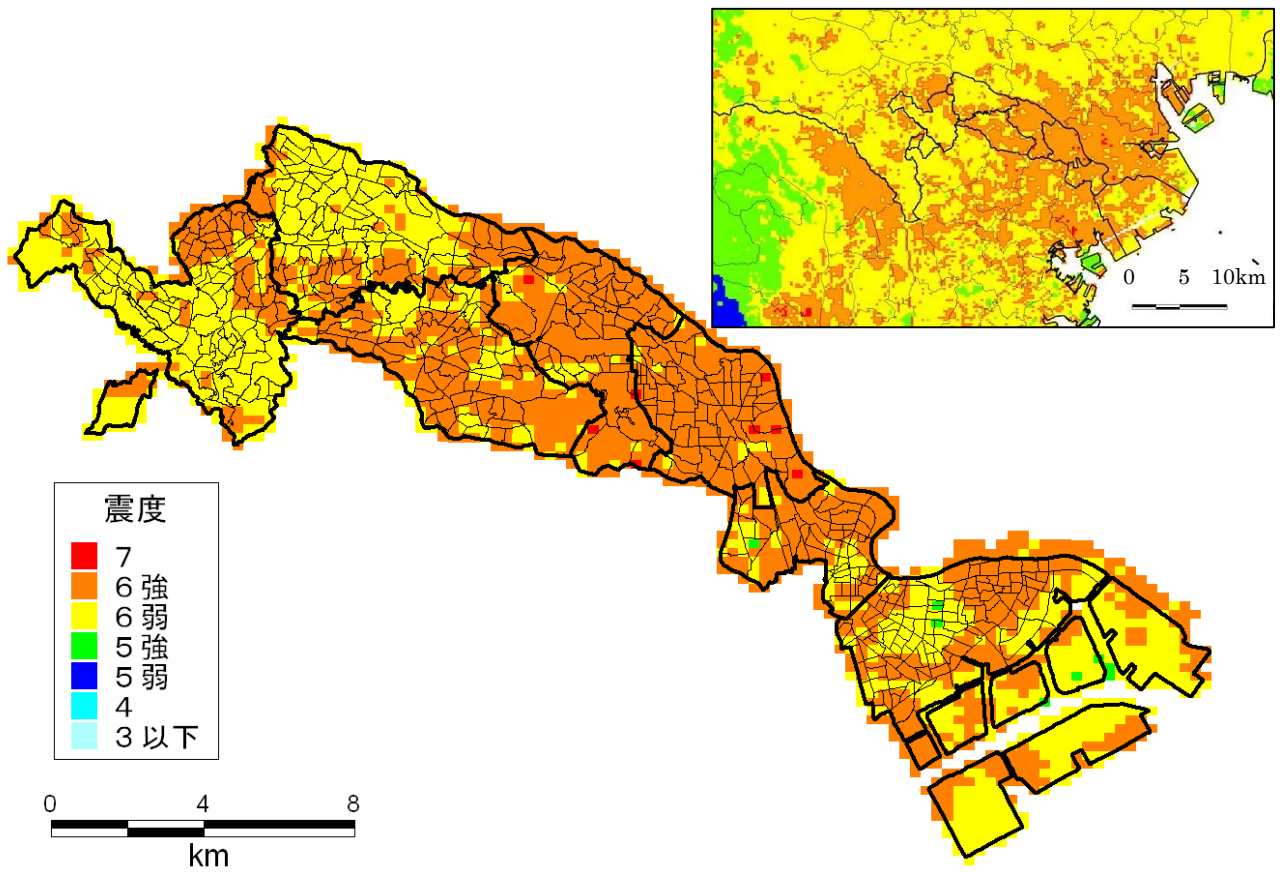
＜ライフライン＞ 上水道は、市内で 570 箇所の被害が発生し、被災直後の断水世帯は約 41 万世帯に達すると想定されます。下水道は、市内で 890 箇所の被害が発生し、約 26 万世帯に機能支障が生じると想定されます。電柱被害が市内で約 9 千本発生し、停電が約 33 万件、固定電話の不通が約 18 万台になると想定され、携帯電話も使えない可能性があります。都市ガスは、約 40 万件的供給停止が生じると想定されます。

＜道路・鉄道＞ 市内で橋梁・橋脚の被害が発生し、大規模な損傷を被る橋梁・橋脚も想定され、1 か月程度以上にわたって通行規制となる区間が生じると想定されます。鉄道については、市内においては、8 路線（貨物線も含む）について不通となると想定され、数日間不通となる路線も想定されます。また、市外についても、不通となる路線が発生する可能性があります。

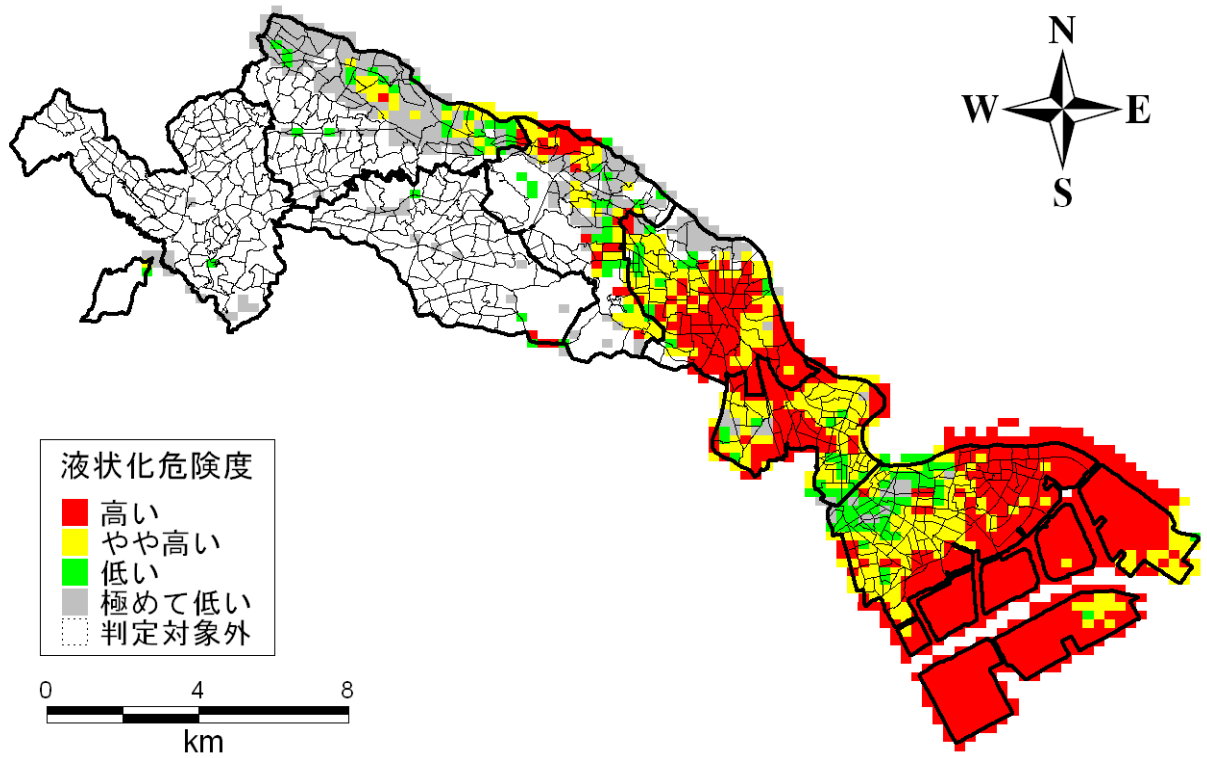
＜港湾施設＞ 川崎港では、2 バースについて耐震岸壁として整備済みであり、非耐震バースのうち、14 バースに被害が発生すると想定されます。

＜災害廃棄物＞ 建物の全・半壊や焼失等により生じる災害廃棄物の発生量は、市内で約 3,696 千トンに達すると想定されます。

＜経済被害＞ 経済的な被害額は、直接被害が約 5.3 兆円と想定されます。

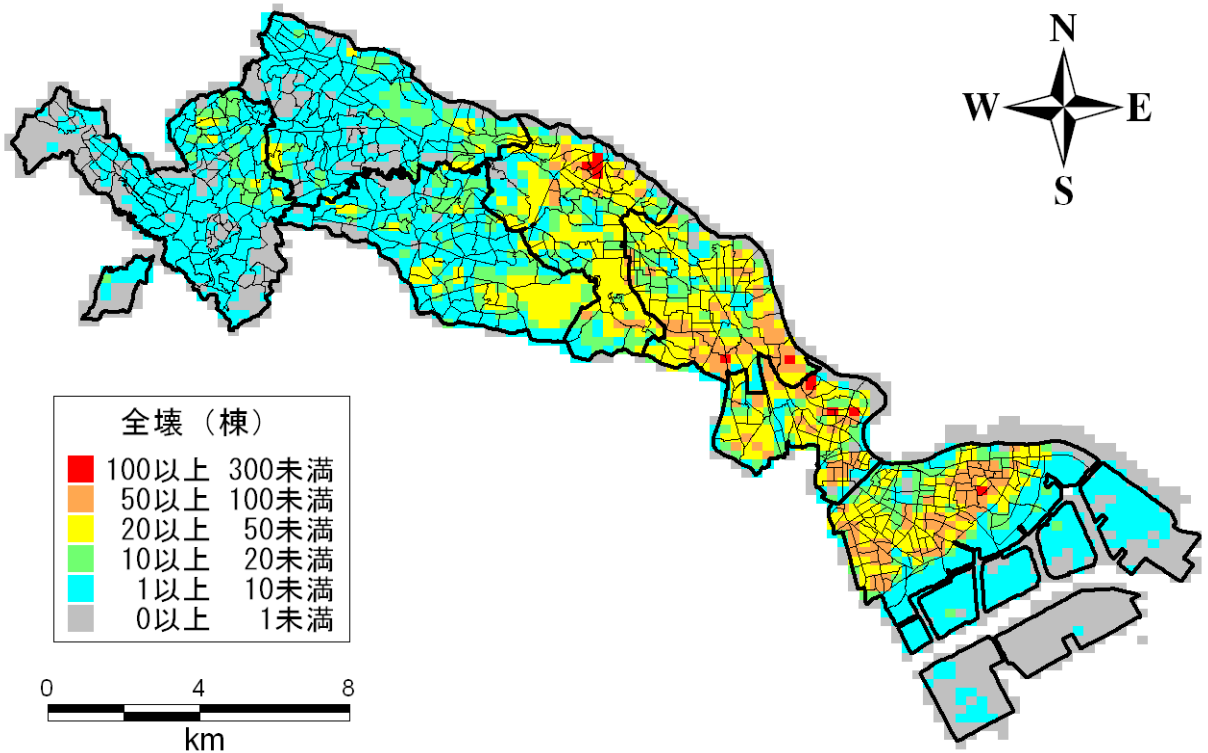


川崎市直下の地震の震度分布（右上は広域の震度分布）

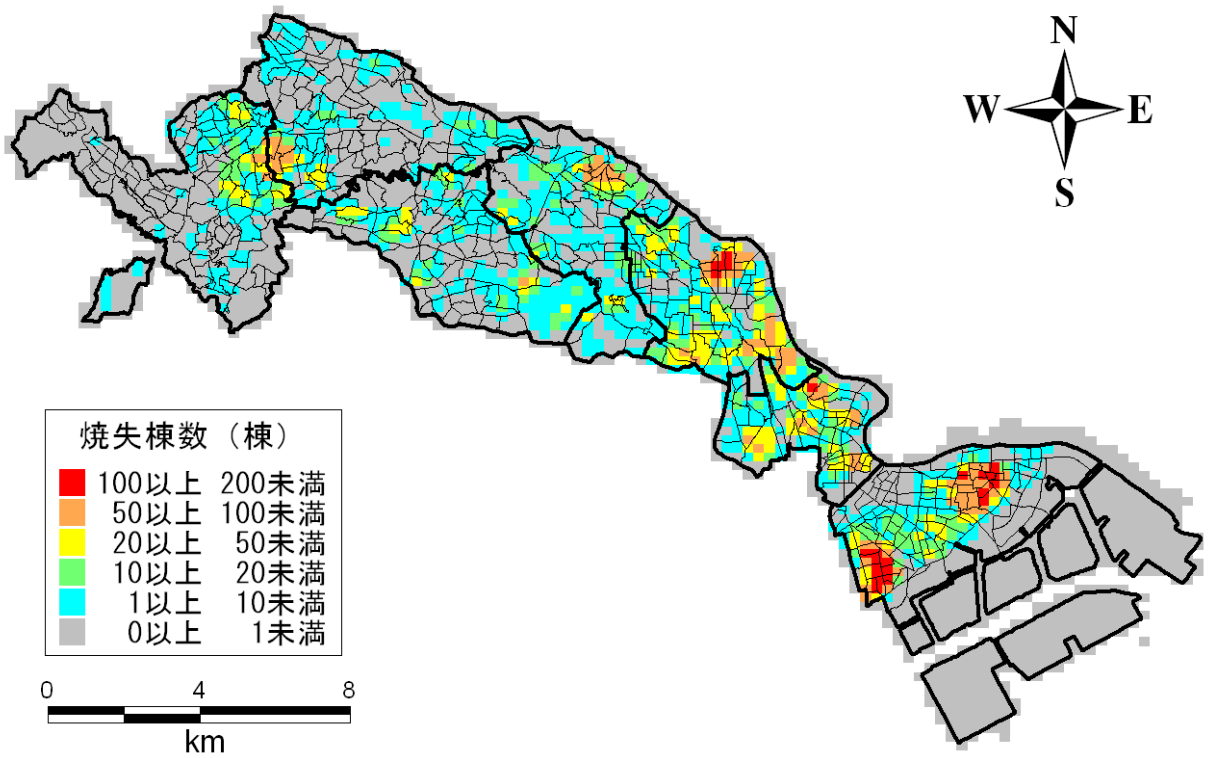


川崎市直下の地震の液状化危険度分布

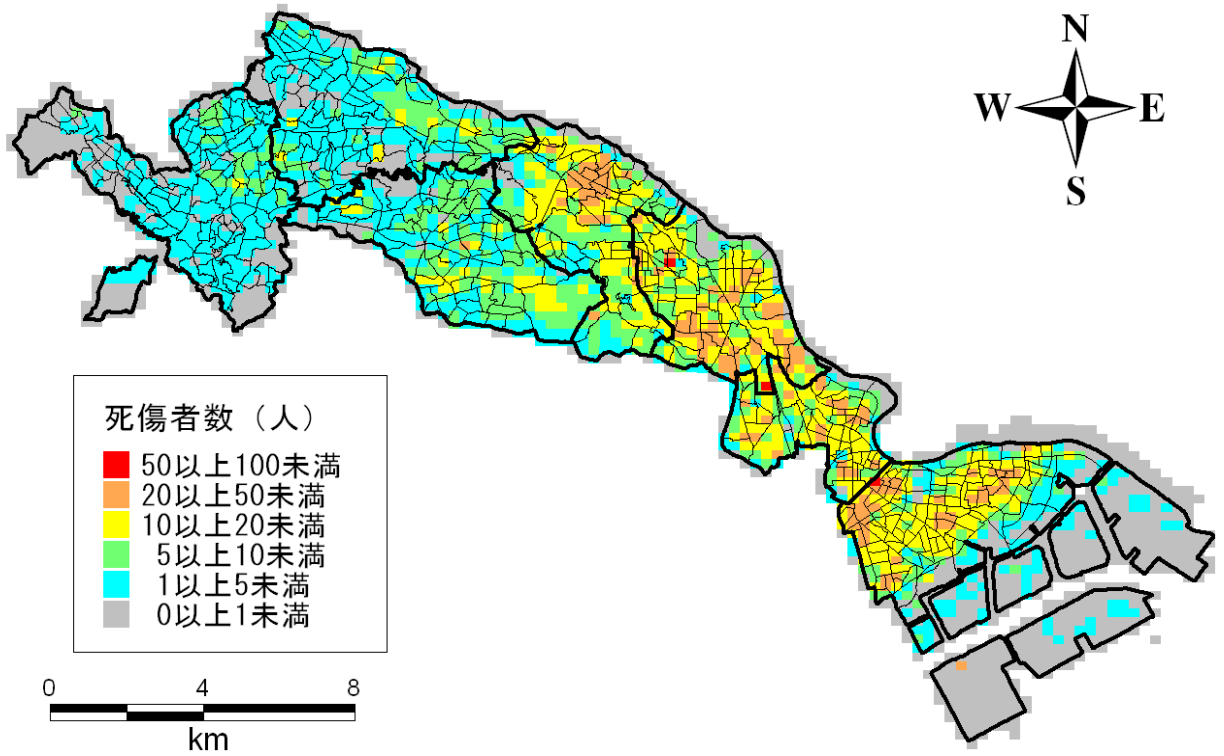




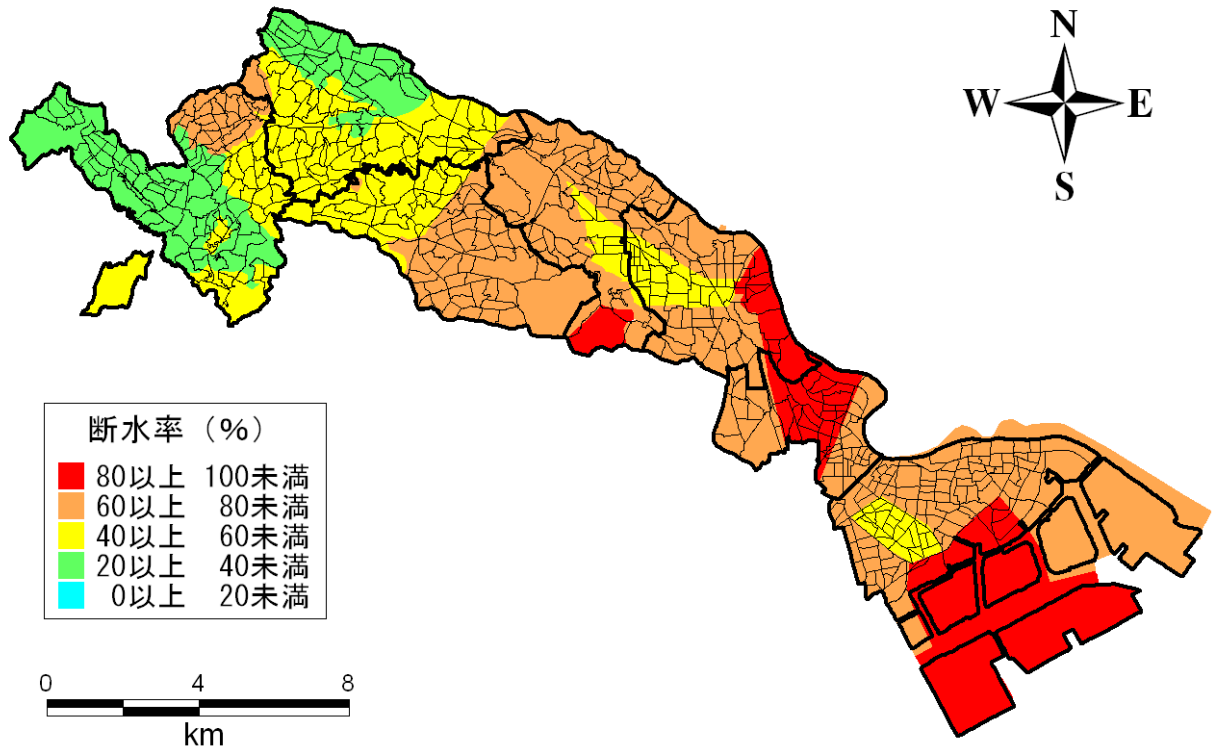
川崎市直下の地震の全壊棟数分布



川崎市直下の焼失棟数分布 (冬 18 時)



川崎市直下の地震の死傷者数分布 (冬 18時)



川崎市直下の地震の断水率分布 (1～3日後)

## (2) 南関東地震

〈 **震度** 〉 川崎市市内においては、震度 5 強～ 6 強の揺れになると想定されます。揺れの大きい震度 6 強となる地域は、川崎区の一部の地域（特に東部沿岸部地域の一部）であり、その他中原区、高津区でも震度 6 強となる所があると想定されます。震度 6 強となる地域以外については、川崎区、幸区、中原区、高津区、宮前区では、震度 6 弱となる地域が多くを占め、多摩区、麻生区では震度 5 強となる地域が多くを占めると想定されます。

**\* 被害 \*** 市内全域に被害が及ぶと想定されますが、特に川崎区の被害が大きくなると想定されます。

〈 **人的被害** 〉 市内での人的被害は、死者 290 人、負傷者 6,480 人と想定されます。要因別の被害の内訳（死者）は次のとおりです。

- ・建物被害：死者 210 人。なお、最大は夏 12 時の場合に 230 人。
- ・急傾斜地崩壊：死者数人程度。なお、最大は冬 5 時の場合に 10 人。
- ・屋外落下物：死者は発生しない。
- ・家具転倒：死者 10 人。なお、最大は冬 5 時の場合に 20 人。
- ・ブロック塀等の倒壊：死者 10 人。
- ・火災：死者 60 人。
- ・津波：死者数人程度。

〈 **救出** 〉 救出が必要となる自力脱出困難者は、市内で 150 人と想定されます。建物被害の大きい川崎区で 90 人の自力脱出困難者が発生すると想定されます。なお、自力脱出困難者が最大となるのは夏 12 時の場合で、市内で 160 人です。

〈 **避難者** 〉 建物被害、断水、エレベータ停止(停止台数は、地震直後に市内で 5,280 台)による地震発生 1 日後の避難者数は、およそ 18 万人、市の人口の約 13% と想定されます。地域で見ると川崎区が約 6 万人（区の人口の約 22%）と最も多く、幸区、中原区、高津区、宮前区の各区では約 2～3 万人の避難者が想定されます。

〈 **帰宅困難者** 〉 地震直後には、鉄道の路線点検等により不通となるため、帰宅困難者が発生します。川崎市内から市外へ帰宅する帰宅困難者は約 44 万人、市外から川崎市内へ帰宅する帰宅困難者は約 50 万人に達すると想定されます。

〈 **建物** 〉 建物の被害は、市内で全壊棟数が 8,990 棟（全建物の 4%）、半壊棟数が 29,240 棟（全建物の 12%）と想定されます。このうち、揺れによる被害が最も多く、全壊は 8,390 棟（被害全体の 72%が木造の建物）と想定されます。地域で見ると、最も被害が多いのは、全壊が川崎区で 5,730 棟、次いで幸区で 1,060 棟と想定されます。急傾斜地崩壊による被害は、市内で全壊が 80 棟と想定されます。津波による海面上昇により、浸水被害が出る可能

性も想定されます。

＜急傾斜地崩壊＞ 急傾斜地で崖崩れの生じる可能性が高い地点は、市内で 80 箇所に達すると想定されます。

＜液状化＞ 川崎区の沿岸部や多摩川沿いの地域で液状化の可能性がかなり高いと想定されます。また、幸区、中原区の低地部でも液状化の可能性がかなり高いと想定されます。

＜火災＞ 出火件数は、市内で 50 件と想定されます。出火地点は市内全域にわたりますが、川崎区が最も多いと想定されます。焼失棟数は市内で 3,720 棟と想定されます。地域でみると、最も被害が多いのは川崎区で 1,990 棟、次いで中原区で 550 棟の焼失が想定されます。

＜ライフライン＞ 上水道は、市内で 280 箇所の被害が発生し、被災直後の断水世帯は約 22 万世帯に達すると想定されます。下水道は、市内で 430 箇所の被害が発生し、約 15 万世帯に機能支障が生じると想定されます。電柱被害が市内で約 2 千本発生し、停電が約 12 万件、固定電話の不通が約 6 万台になると想定され、携帯電話も使えない可能性があります。都市ガスは、供給停止は生じないと想定されます。

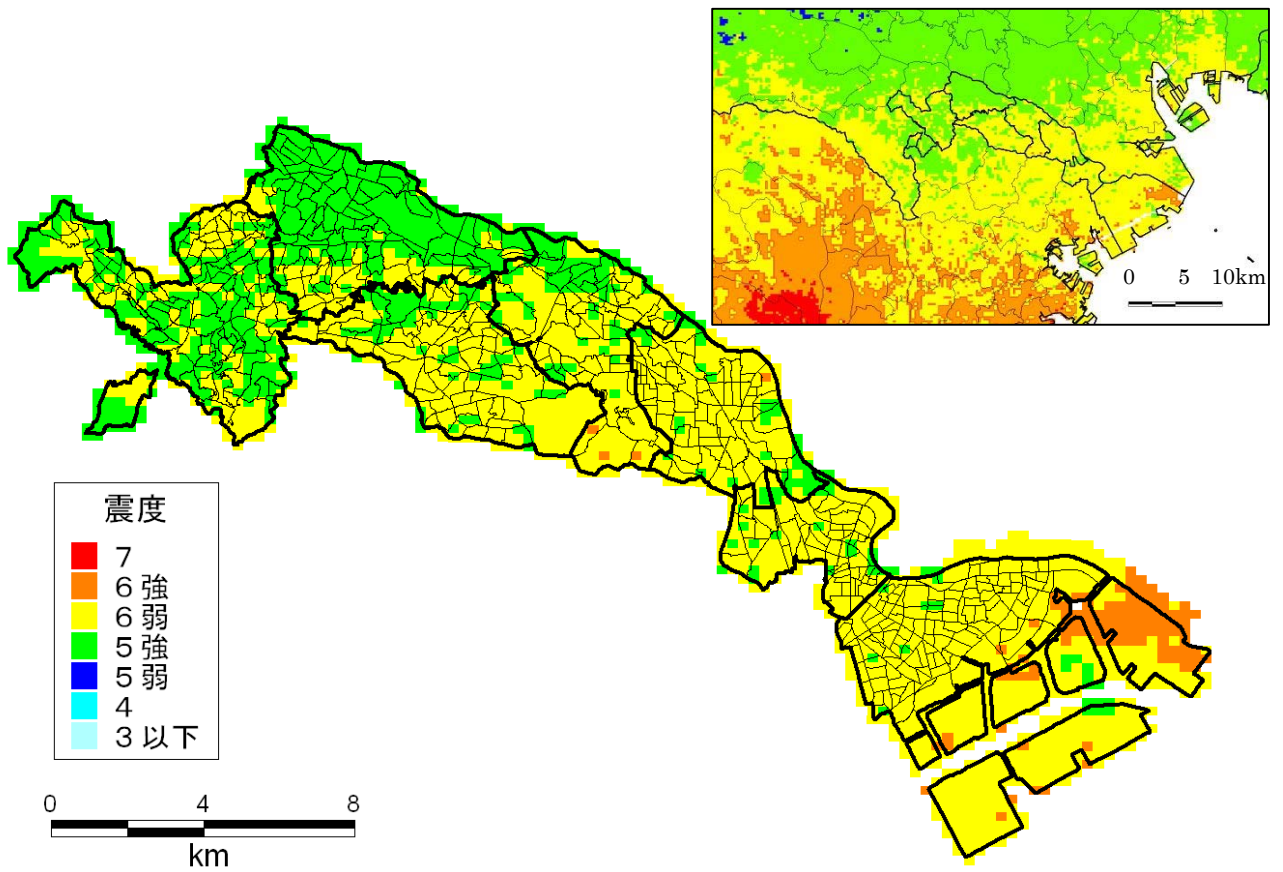
＜道路・鉄道＞ 市内で橋梁・橋脚の被害は発生しますが、1 か月程度以上にわたって通行規制となる区間は生じないと想定されます。鉄道については、市内においては、1 路線について不通となると想定されますが、市外についても、不通となる路線が発生する可能性があります。

＜港湾施設＞ 川崎港では、2 バースについて耐震岸壁として整備済みであり、非耐震バースのうち、14 バースに被害が発生すると想定されます。

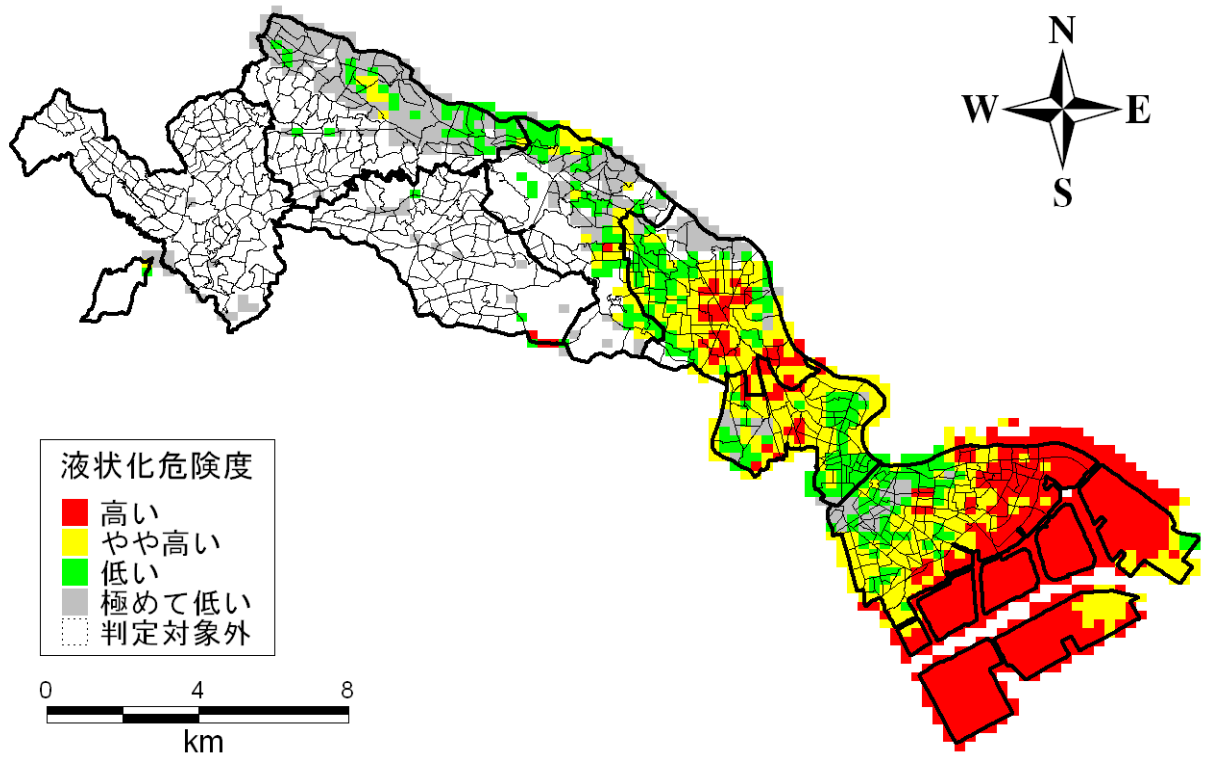
＜災害廃棄物＞ 建物の全・半壊や焼失等により生じる災害廃棄物の発生量は、市内で約 1,609 千トンに達すると想定されます。

＜経済被害＞ 経済的な被害額は、直接被害が約 2.6 兆円と想定されます。

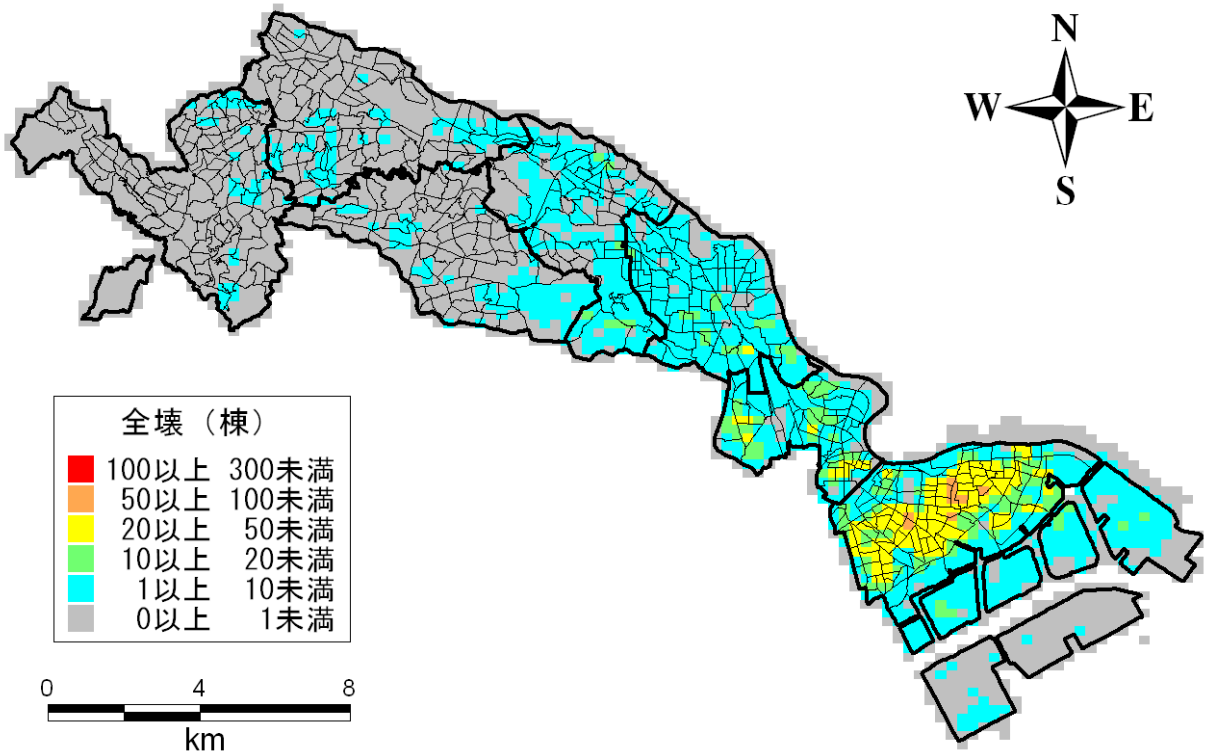
※＜長周期地震動＞ 南関東地震のようにマグニチュード 8 クラスの巨大地震が発生すると、関東平野のような厚い堆積層に覆われた平野では、小刻みな強い揺れが収まった後から、ゆっくり揺れる長い周期の揺れ（長周期地震動）が強く発生する可能性があります。長周期地震動は数分以上長く揺れが続くため超高層ビルなどでは、室内の家具が転倒したり、移動するなど思わぬ障害物となる危険性があるため、家具の固定の必要性が強調されています。長周期地震動の影響は現在研究途上であり、今回の被害想定調査では長周期地震動による高層住宅等での屋内被災の具体的な被害について定量的な評価は行なっていません。今後、国の研究機関等での数値解析や実験の結果を今後も注意して見守る必要があると考えています。



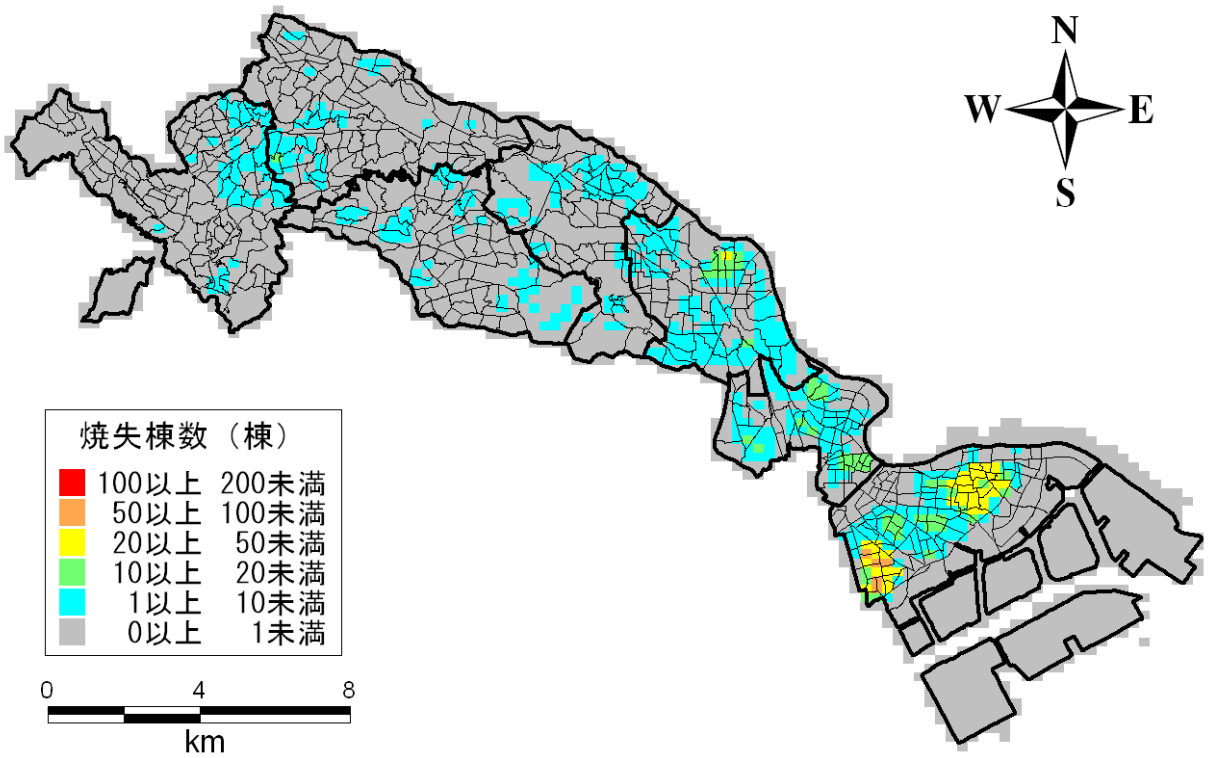
南関東地震の震度分布（右上は広域の震度分布）



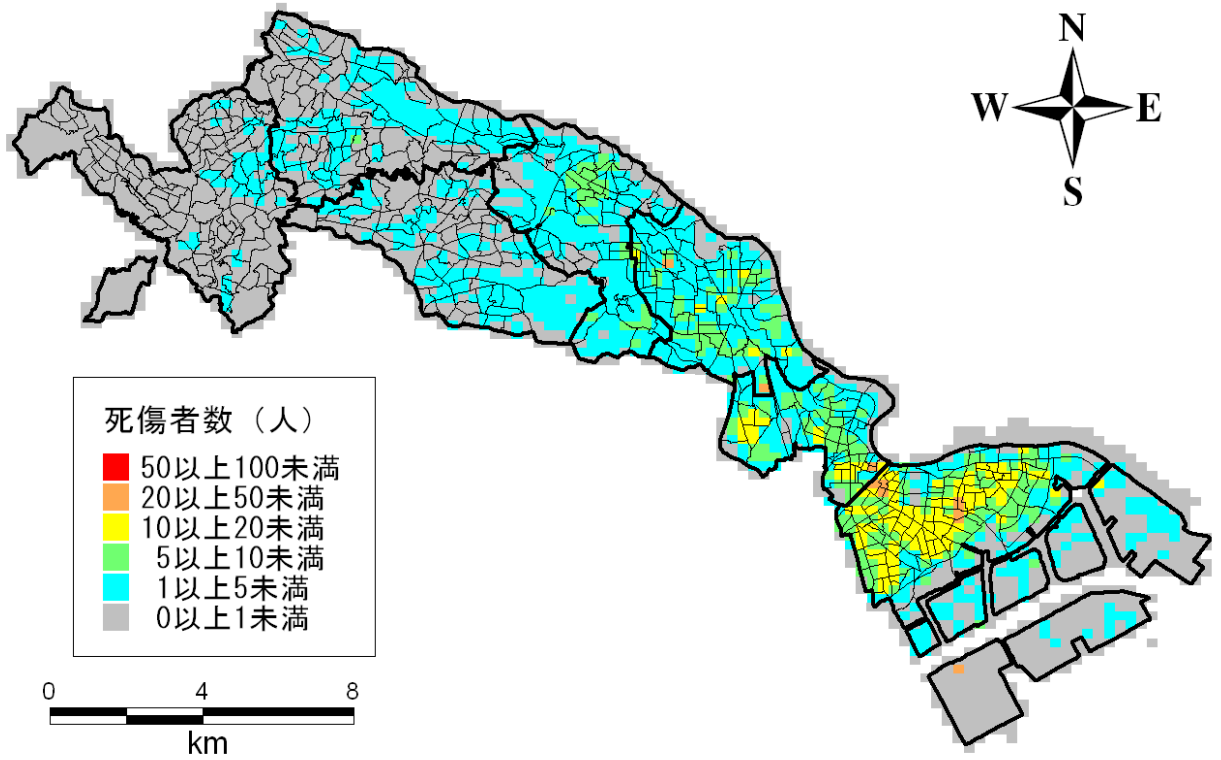
南関東地震の液状化危険度分布



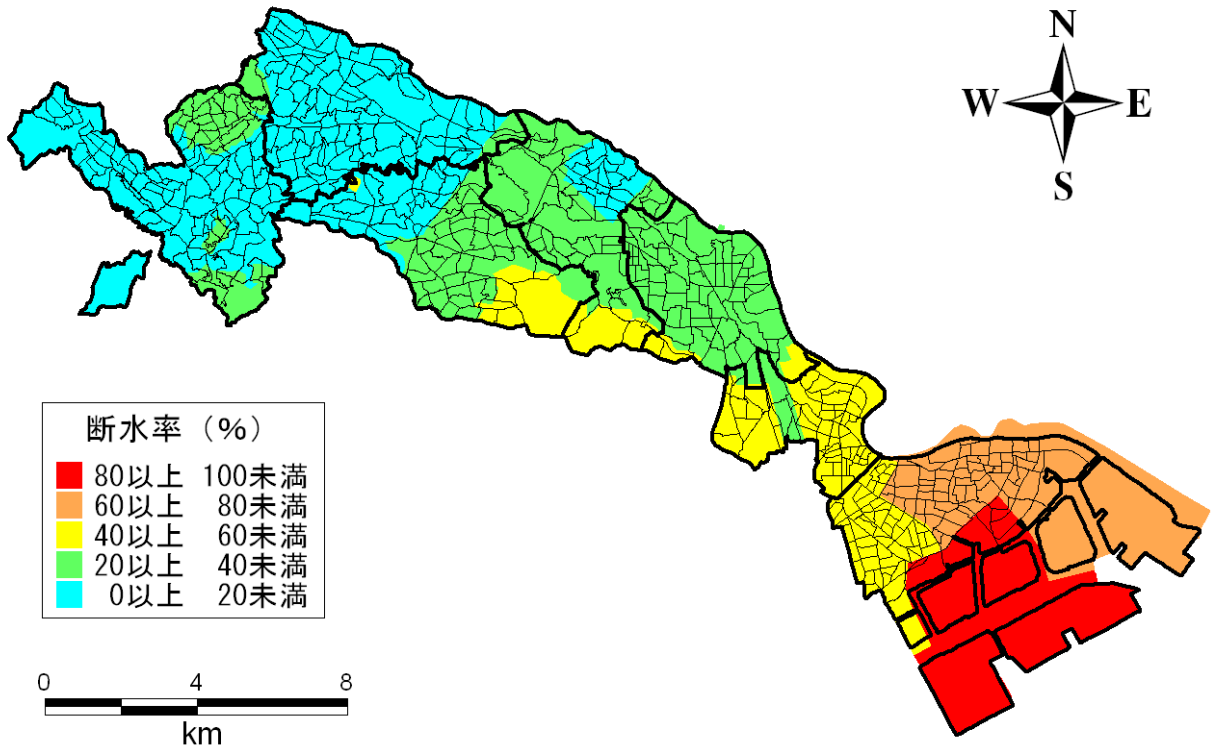
南関東地震の全壊棟数分布



南関東地震の焼失棟数分布 (冬 18 時)



南関東地震の死傷者数分布（冬 18時）



南関東地震の断水率分布（1～3日後）

### (3) 東京湾北部地震

〈 **震度** 〉 川崎市内においては、震度5弱～6強の揺れになると想定されます。揺れの大きい震度6強となる地域が、川崎区、中原区、高津区にあると想定されます。震度5強、震度6弱となる地域は、ほぼ南関東地震と同様となっていますが、一部にはやや小さくなっている箇所も見られます。麻生区の一部では、震度5弱程度にとどまると想定される所もあります。

**\* 被害 \*** 市内全域に被害が及ぶと想定されますが、特に川崎区の被害が大きくなると想定されます。

〈 **人的被害** 〉 市内での人的被害は、死者240人、負傷者5,370人と想定されます。要因別の被害の内訳（死者）は次のとおりです。

- ・建物被害：死者170人。なお、最大は夏12時の場合に190人。
- ・急傾斜地崩壊：死者数人程度。なお、最大は冬5時の場合に10人。
- ・屋外落下物：死者は発生しない。
- ・家具転倒：死者10人。なお、最大は冬5時の場合に20人。
- ・ブロック塀等の倒壊：死者10人。
- ・火災：死者50人。
- ・津波：死者は発生しない。なお、最大は冬5時の場合に数人程度。

〈 **救出** 〉 救出が必要となる自力脱出困難者は、市内で120人と想定されます。建物被害の大きい川崎区で70人の自力脱出困難者が発生すると想定されます。なお、自力脱出困難者が最大となるのは夏12時の場合で、市内で130人です。

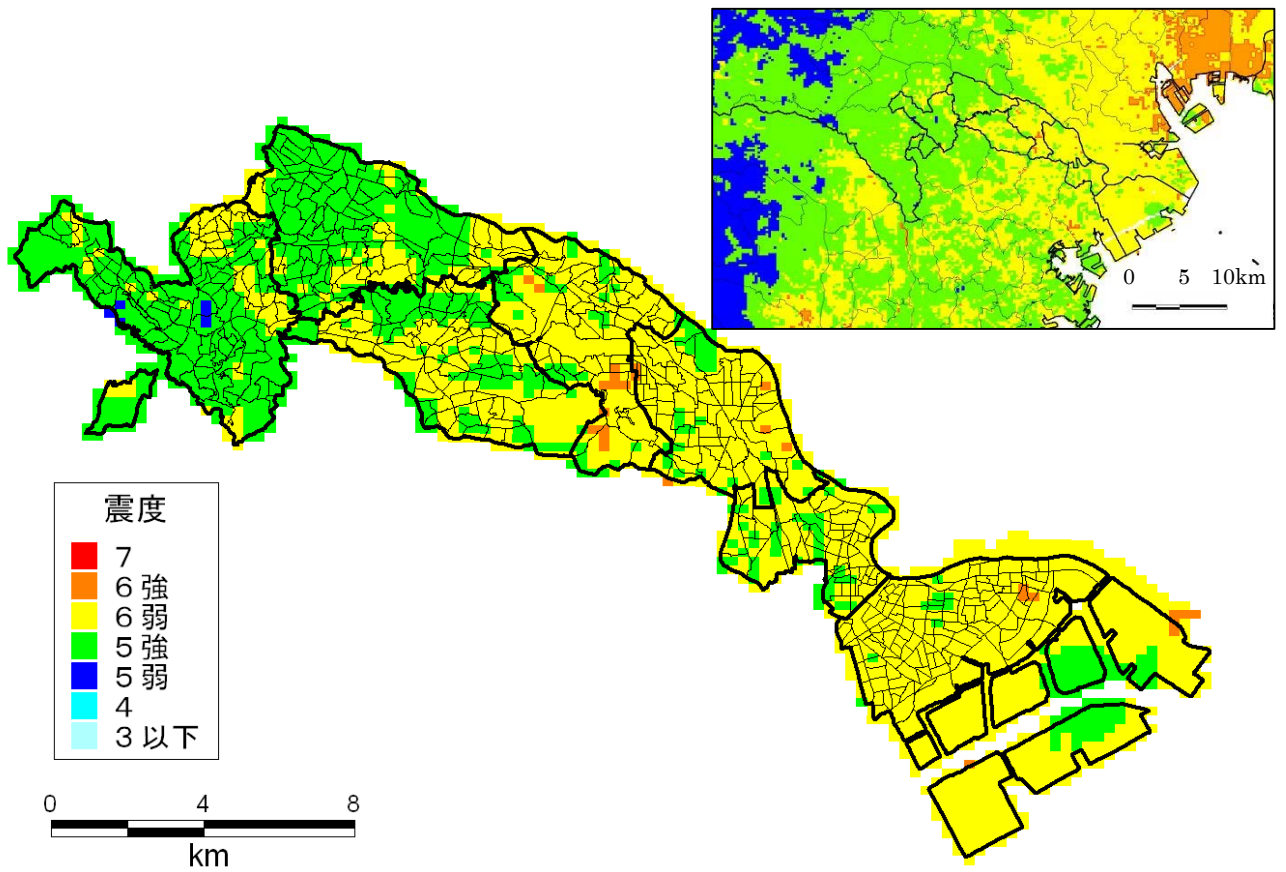
〈 **避難者** 〉 建物被害、断水、エレベータ停止(停止台数は、地震直後に市内で5,300台)による地震発生1日後の避難者数は、およそ15万人、市の人口の約11%と想定されます。地域で見ると川崎区が約5万人(区の人口の約20%)と最も多く、幸区、中原区、高津区の各区では約2～3万人の避難者が想定されます。

〈 **帰宅困難者** 〉 地震直後には、鉄道の路線点検等により不通となるため、帰宅困難者が発生します。川崎市内から市外へ帰宅する帰宅困難者は約44万人、市外から川崎市内へ帰宅する帰宅困難者は約50万人に達すると想定されます。

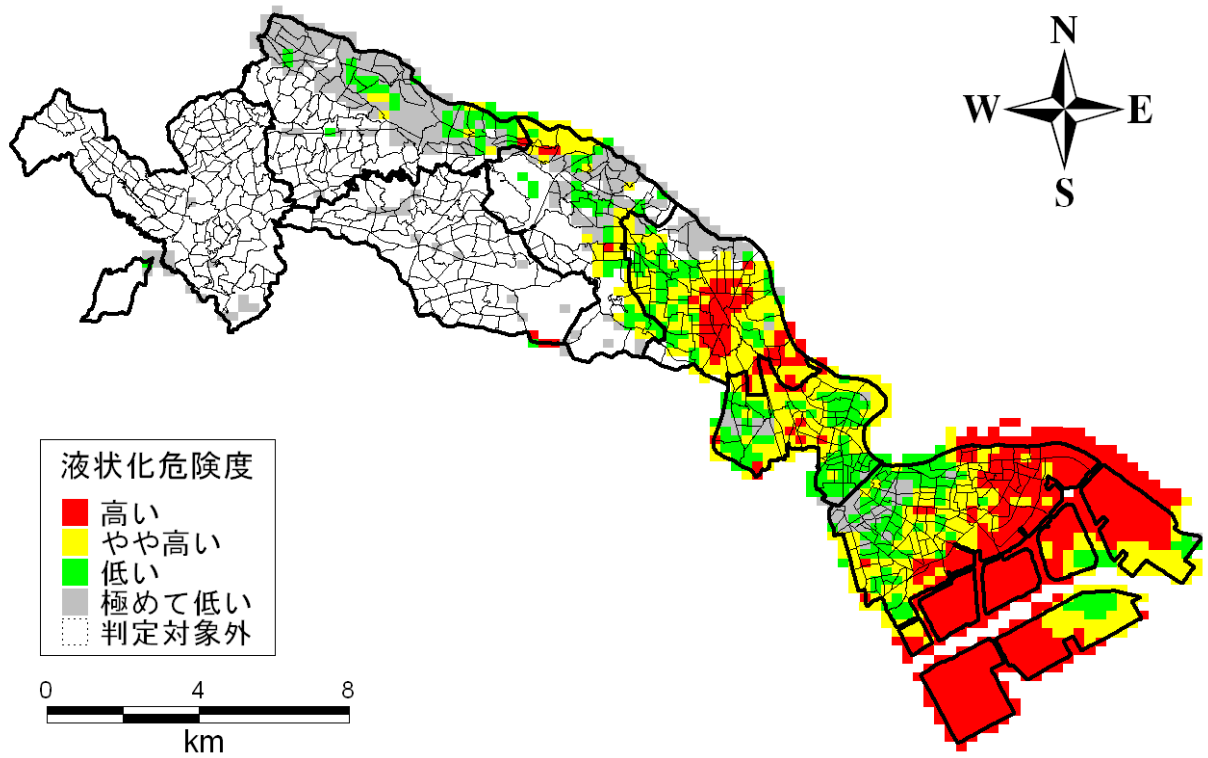
〈 **建物** 〉 建物の被害は、市内で全壊棟数が7,260棟(全建物の3%)、半壊棟数が24,710棟(全建物の10%)と想定されます。このうち、揺れによる被害が最も多く、全壊は6,670棟(被害全体の73%が木造の建物)と想定されます。地域で見ると、最も被害が多いのは、全壊が川崎区で4,680棟、次いで中原区で1,170棟と想定されます。急傾斜地崩壊による被害は、市内で全壊が70棟と想定されます。



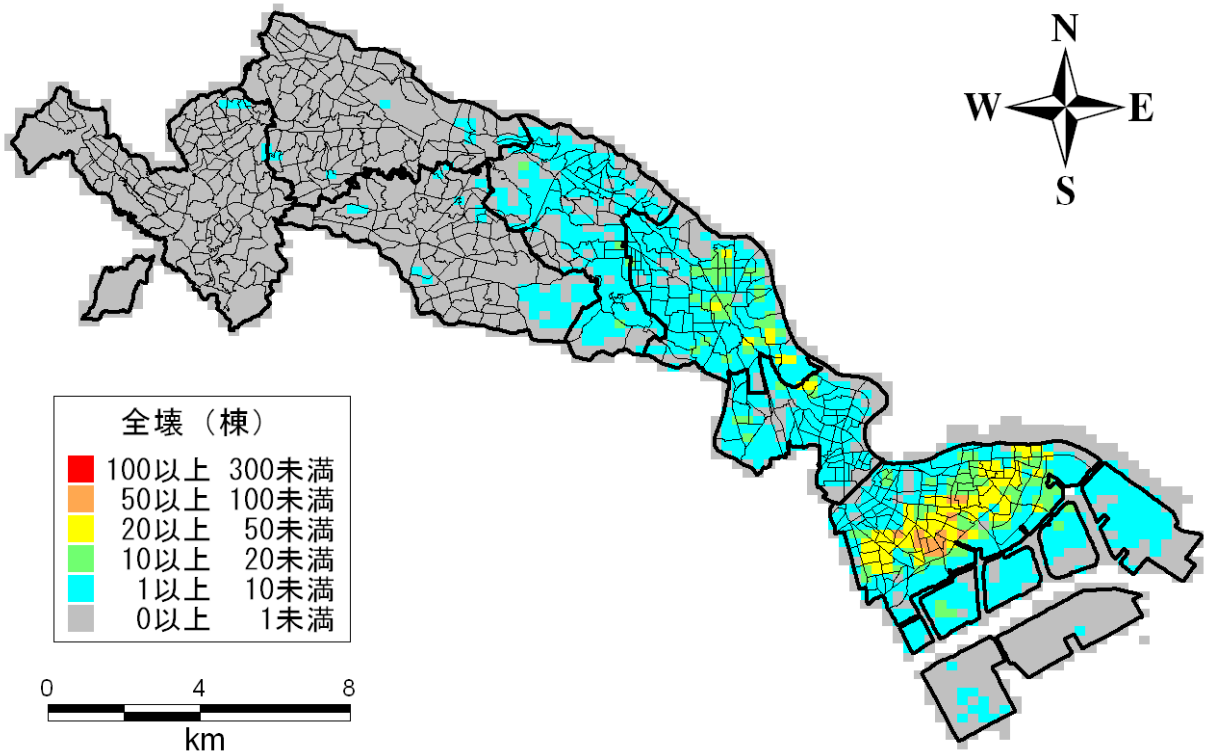
- 〈**急傾斜地崩壊**〉 急傾斜で崖崩れの生じる可能性が高い地点は、市内で 60 箇所に達すると想定されます。
- 〈 **液状化** 〉 川崎区の沿岸部や多摩川沿いの地域で液状化の可能性がかなり高いと想定されます。また、幸区、中原区の低地部でも液状化の可能性がかなり高いと想定されます。
- 〈 **火災** 〉 出火件数は、市内で 50 件と想定されます。出火地点は市内全域にわたりますが、川崎区が最も多く想定されます。焼失棟数は市内で 3,560 棟と想定されます。地域で見ると、最も被害が多いのは川崎区で 1,800 棟、次いで中原区で 670 棟の焼失が想定されます。
- 〈**ライフライン**〉 上水道は、市内で 230 箇所の被害が発生し、被災直後の断水世帯は約 18 万世帯に達すると想定されます。下水道は、市内で 340 箇所の被害が発生し、約 13 万世帯に機能支障が生じると想定されます。電柱被害が市内で約 2 千本発生し、停電が約 10 万件、固定電話の不通が約 5 万台になると想定され、携帯電話も使えない可能性があります。都市ガスは、供給停止は生じないと想定されます。
- 〈**道路・鉄道**〉 市内で橋梁・橋脚の被害は発生しますが、1 か月程度以上にわたって通行規制となる区間は生じないと想定されます。鉄道については、市内においては、不通となる路線は生じないと想定されますが、市外については、不通となる路線が発生する可能性があります。
- 〈 **港湾施設** 〉 川崎港では、2 バースについて耐震岸壁として整備済みであり、非耐震バースのうち、6 バースに被害が発生すると想定されます。
- 〈**災害廃棄物**〉 建物の全・半壊や焼失等により生じる災害廃棄物の発生量は、市内で約 1,332 千トンに達すると想定されます。
- 〈 **経済被害** 〉 経済的な被害額は、直接被害が約 2.1 兆円と想定されます。



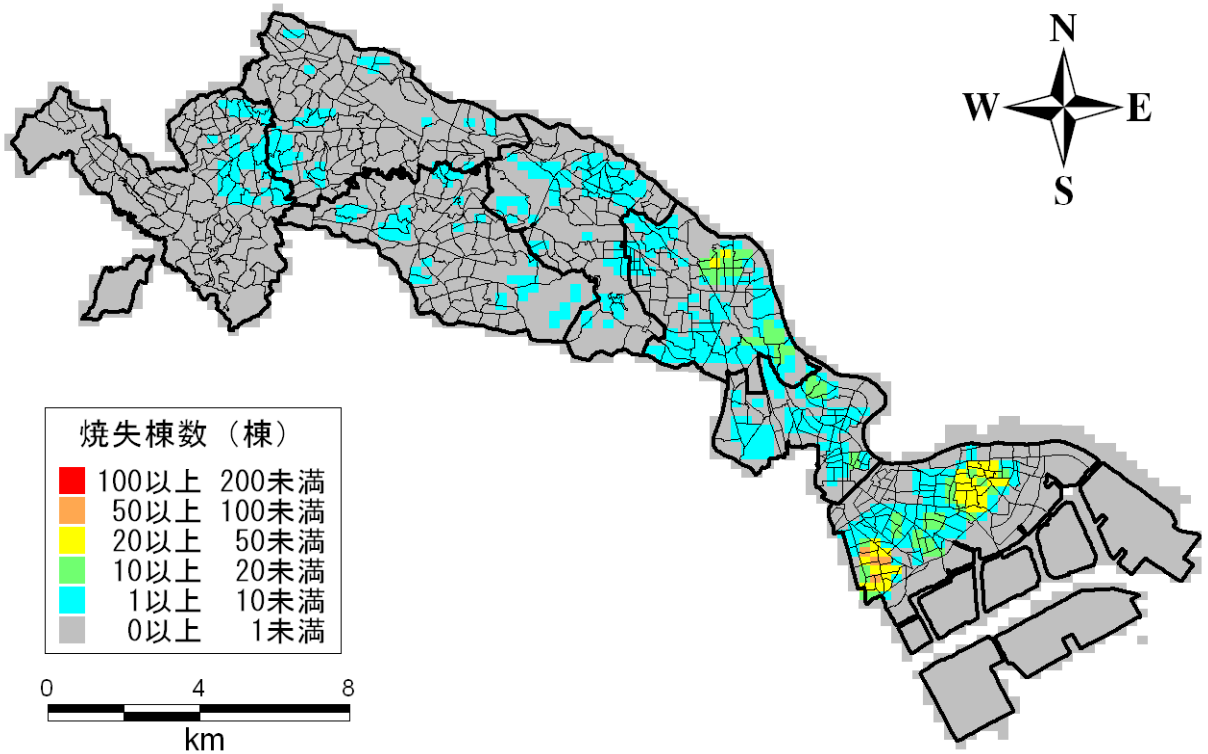
東京湾北部地震の震度分布（右上は広域の震度分布）



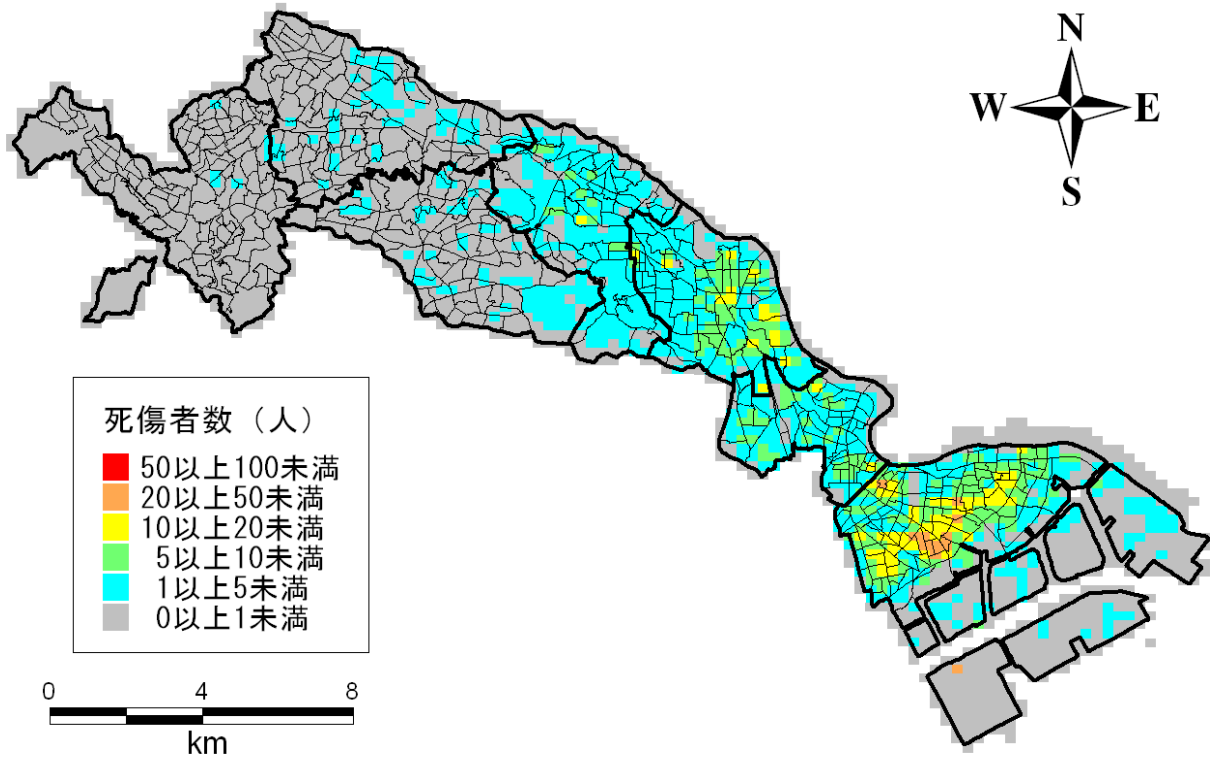
東京湾北部地震の液状化危険度分布



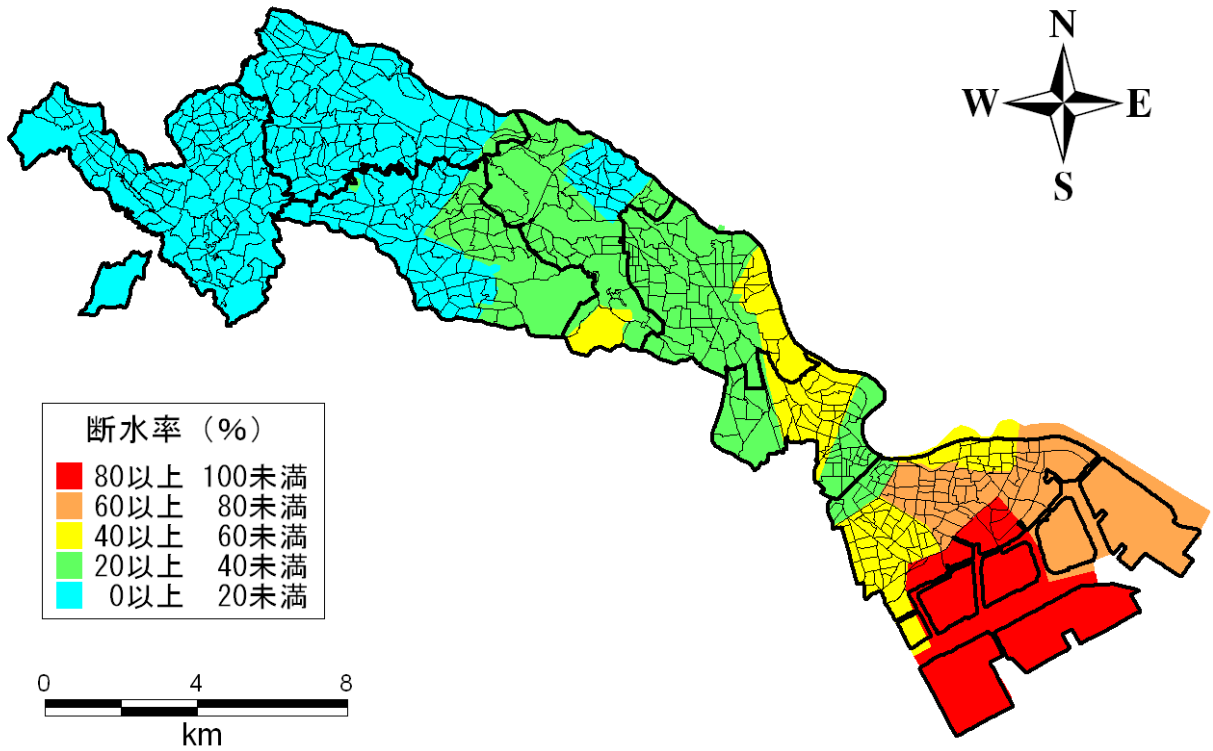
東京湾北部地震の全壊棟数分布



東京湾北部地震の焼失棟数分布 (冬 18 時)



東京湾北部地震の死傷者数分布 (冬 18時)



東京湾北部地震の断水率分布 (1~3日後)

4. 区別被害想定結果

(1) 川崎市直下の地震

区	地震動 建物被害											地震火災			
	震度 震度範囲	揺れ		液状化		急傾斜地崩壊		津波			合計		出火 出火件数 (件)	延焼 焼失棟数 (棟)	
		全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	床上浸水 数(棟)	床下浸水 数(棟)	全壊数 (棟)			半壊数 (棟)
川崎区	5強-6強	8,070	11,110	340	600	0	0	0	0	0	0	8,400	11,710	40	5,390
幸区	5強-6強	4,780	6,160	130	290	0	0	0	0	0	0	4,900	6,450	30	2,330
中原区	6弱-7	7,320	9,000	160	390	10	30	0	0	0	0	7,490	9,420	50	4,160
高津区	6弱-7	6,270	8,620	20	60	100	230	0	0	0	0	6,390	8,900	50	1,670
宮前区	6弱-6強	3,200	7,550	*	*	50	120	0	0	0	0	3,250	7,670	40	1,240
多摩区	6弱-6強	1,940	6,650	*	10	50	120	0	0	0	0	1,990	6,780	20	1,310
麻生区	6弱-6強	1,380	5,630	0	*	70	150	0	0	0	0	1,440	5,790	20	1,270
市合計	5強-7	32,940	54,710	640	1,340	280	650	0	0	0	*	33,860	56,700	250	17,370

区	人的被害											合計				り災世帯							
	死者 (人)	建物倒壊 負傷者(人)			急傾斜地崩壊		屋外落下物		家具転倒		ブロック塀		火災		津波		死者 (人)	負傷者 (人)	全壊世帯 (世帯)	半壊世帯 (世帯)	焼失世帯 (世帯)	床上浸水世帯 (世帯)	床下浸水世帯 (世帯)
		入院	重傷	軽傷	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)							
川崎区	220	160	400	2,460	0	0	0	30	10	60	*	110	80	1,710	0	0	300	4,930	17,850	24,870	12,970	0	10
幸区	120	100	230	1,370	0	0	0	20	*	40	*	70	40	680	0	0	160	2,500	12,920	17,000	6,800	0	0
中原区	220	190	440	2,290	*	10	0	30	*	50	*	130	70	1,350	0	0	290	4,500	20,980	26,380	13,210	0	0
高津区	160	170	370	1,940	*	70	0	20	*	50	*	100	30	440	0	0	200	3,170	18,570	25,880	5,120	0	0
宮前区	60	80	170	1,270	*	40	0	10	*	40	*	90	20	270	0	0	90	1,960	8,630	20,340	3,410	0	0
多摩区	40	40	90	960	*	50	0	10	*	30	*	80	20	300	0	0	60	1,540	5,070	17,260	3,470	0	0
麻生区	20	30	50	640	*	50	0	*	*	20	*	70	20	280	0	0	40	1,130	2,770	11,120	2,540	0	0
市合計	830	760	1,740	10,910	10	220	*	130	20	300	20	660	260	5,020	0	0	1,140	19,730	86,790	142,850	47,520	0	10

区	ライフライン											生活支障等										
	上水道		下水道		通信・電力		都市ガス		LPガス		避難者(避難所)			災害用トイレ		災害廃棄物			自力脱出		エレベータ停止	
	被害数 (箇所)	断水世帯(1~3日後) (世帯)	被害数 (箇所)	機能喪失世帯(1~3日後) (世帯)	電柱被害 (本)	不通台数 (台)	停電件数 (件)	供給停止 件数(件)	ガスボンベ 被害 (世帯)	1~3日後 (人)	10日後 (人)	28日後 (人)	必要基数 (1~3日後) (基)	可燃物 (千トン)	不燃物 (千トン)	合計 (千トン)	困難者 (人)	停止台数 (基)	閉じ込め 台数(基)			
川崎区	140	77,730	240	66,640	/	/	97,000	70	79,170	69,090	45,090	790	267	1,069	1,336	140	1,690	*				
幸区	60	53,590	100	38,240	/	/	61,600	80	56,440	55,530	30,400	560	92	367	458	80	610	*				
中原区	90	48,640	110	42,580	/	/	105,140	140	82,980	71,470	49,710	830	146	583	729	160	1,040	*				
高津区	90	71,020	130	33,510	/	/	74,460	310	71,130	58,800	35,970	710	111	445	556	130	940	*				
宮前区	90	62,220	70	30,550	/	/	59,020	220	58,660	51,050	20,330	590	58	232	290	50	650	*				
多摩区	40	40,620	140	32,890	/	/	6,710	190	36,470	14,580	13,380	370	35	142	177	30	570	0				
麻生区	60	31,030	100	19,000	/	/	0	50	29,870	13,800	9,830	300	30	120	150	20	430	0				
市合計	570	414,850	890	263,400	9,020	175,930	329,660	403,930	1,060	414,720	334,320	204,710	4,150	739	2,957	3,696	610	5,930	10			

全市	交通等						
	道路橋	鉄道	港湾	医療機能	帰宅困難者	経済被害	
	大規模 損傷 (箇所)	1日後 不通路線 (路線数)	被害 バス (バス数)	1~3日 間来院者 (人)	川崎市 から帰宅 (人)	川崎市へ 帰宅 (人)	直接経済 被害 (億円)
川崎市	7	8	14	19,780	443,410	502,340	53,067

※「川崎市直下の地震」の津波は本調査では想定していません。ここでは「東京湾北部地震」と同程度と想定しました。  
 ※※冬18時の想定。合計は四捨五入の関係で合わない場合があります。  
 ※※交通等の一部の被害を除き、1~4の数値の場合\*標記としています。

~基礎資料~

	総世帯数と時間帯別人口								平成20年9月現在							
	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	全市計	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	全市計
総世帯数	110,037 (16.9%)	70,031 (10.8%)	112,504 (17.3%)	99,011 (15.2%)	91,409 (14.0%)	98,126 (15.1%)	69,575 (10.7%)	650,693 (100%)	217,098 (15.7%)	150,404 (10.9%)	222,485 (16.1%)	210,167 (15.2%)	214,168 (15.5%)	203,220 (14.7%)	163,114 (11.8%)	1,380,656 (100%)
5時	217,098 (15.7%)	150,404 (10.9%)	222,485 (16.1%)	210,167 (15.2%)	214,168 (15.5%)	203,220 (14.7%)	163,114 (11.8%)	1,380,656 (100%)	257,520 (21.9%)	129,185 (11.0%)	198,052 (16.9%)	170,150 (14.5%)	145,518 (12.4%)	154,901 (12.2%)	119,755 (10.2%)	1,175,081 (100%)
12時	257,520 (21.9%)	129,185 (11.0%)	198,052 (16.9%)	170,150 (14.5%)	145,518 (12.4%)	154,901 (12.2%)	119,755 (10.2%)	1,175,081 (100%)	267,599 (19.6%)	149,484 (10.9%)	226,127 (16.5%)	201,729 (14.8%)	185,958 (13.6%)	188,629 (13.8%)	147,908 (10.8%)	1,367,434 (100%)

	全建物棟数と内訳								平成20年3月現在							
	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	全市計	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	全市計
総数	45,694 (18.8%)	23,974 (9.9%)	35,441 (14.6%)	32,286 (13.3%)	33,174 (13.7%)	37,176 (15.3%)	34,893 (14.4%)	242,638 (100%)	26,428 (15.9%)	16,483 (9.9%)	22,877 (13.8%)	22,235 (13.4%)	24,360 (14.6%)	26,767 (16.1%)	27,226 (16.4%)	166,376 (100%)
木造	26,428 (15.9%)	16,483 (9.9%)	22,877 (13.8%)	22,235 (13.4%)	24,360 (14.6%)	26,767 (16.1%)	27,226 (16.4%)	166,376 (100%)	4,511 (2.9%)	1,735 (7.3%)	3,841 (16.1%)	3,386 (14.2%)	3,607 (15.1%)	3,748 (15.7%)	3,062 (12.8%)	23,890 (100%)
R C造	4,511 (2.9%)	1,735 (7.3%)	3,841 (16.1%)	3,386 (14.2%)	3,607 (15.1%)	3,748 (15.7%)	3,062 (12.8%)	23,890 (100%)	14,755 (28.2%)	5,756 (11.0%)	8,723 (16.7%)	6,665 (12.7%)	5,207 (9.9%)	6,661 (12.7%)	4,605 (8.8%)	52,372 (100%)
S造	14,755 (28.2%)	5,756 (11.0%)	8,723 (16.7%)	6,665 (12.7%)	5,207 (9.9%)	6,661 (12.7%)	4,605 (8.8%)	52,372 (100%)								

※R C造・・・鉄筋コンクリート造、S造・・・鉄骨造

(2) 南関東地震

地震動 建物被害

区	震度 震度範囲	揺れ		液状化		急傾斜地崩壊		津波				合計		地震火災	
		全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	床上浸水 数(棟)	床下浸水 数(棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	出火 件数(件)	延焼 焼失棟数 (棟)
川崎区	5強-6強	5,430	10,200	300	540	0	0	0	0	160	1,040	5,730	10,730	20	1,990
幸区	5強-6弱	970	3,910	90	210	0	0	0	0	*	*	1,060	4,120	10	470
中原区	5強-6強	830	4,460	110	270	*	10	0	0	0	0	940	4,740	10	550
高津区	5強-6強	590	3,500	10	40	40	90	0	0	0	0	640	3,630	10	210
宮前区	5強-6弱	240	2,120	*	*	20	40	0	0	0	0	260	2,160	10	160
多摩区	5強-6弱	200	2,280	*	10	10	20	0	0	0	0	210	2,310	*	180
麻生区	5強-6弱	130	1,530	0	*	10	30	0	0	0	0	150	1,560	*	160
市合計	5強-6強	8,390	27,990	520	1,070	80	190	0	0	170	1,040	8,990	29,240	50	3,720

人的被害

区	建物倒壊				急傾斜地崩壊		屋外落下物		家具転倒		ブロック塀		火災		津波		合計		り災世帯		床上浸水世帯 (世帯)	床下浸水世帯 (世帯)	
	死者 (人)	負傷者(人)			死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	全壊世帯 (世帯)	半壊世帯 (世帯)			焼失世帯 (世帯)
川崎区	130	100	250	1,930	0	0	0	20	*	60	*	80	30	530	*	0	170	2,950	13,200	24,720	4,800	390	2,500
幸区	20	20	50	630	0	0	0	10	*	20	*	40	10	40	*	0	30	810	3,040	11,810	1,360	10	10
中原区	30	20	50	760	0	*	0	*	*	30	*	70	10	50	0	0	40	980	2,940	14,810	1,730	0	0
高津区	20	20	40	540	*	30	0	*	*	30	*	40	*	20	0	0	20	720	1,940	11,060	650	0	0
宮前区	10	10	20	280	*	10	0	*	*	20	*	50	*	10	0	0	10	400	720	5,910	440	0	0
多摩区	*	10	10	290	0	10	0	*	*	20	*	40	*	20	0	0	10	380	560	6,060	470	0	0
麻生区	*	*	10	160	*	10	0	0	*	10	*	40	*	10	0	0	10	240	290	3,090	320	0	0
市合計	210	180	420	4,570	*	60	0	30	10	190	10	350	60	680	*	0	290	6,480	22,690	77,460	9,770	400	2,500

ライフライン

区	上水道		下水道		通信・電力			都市ガス		LPガス		生活支障等			災害用トイレ			災害廃棄物			自力脱出		エレベータ停止	
	被害数 (箇所)	断水世帯(1~3日後) (世帯)	被害数 (箇所)	機能喪失世帯(1~3日後) (世帯)	電柱被害 (本)	不通台数 (台)	停電件数 (件)	供給停止 件数(件)	ガスボンベ 被害 (世帯)	1~3日後 (人)	10日後 (人)	28日後 (人)	需要基数 (1~3日後) (基)	可燃物 (千トン)	不燃物 (千トン)	合計 (千トン)	困難者 (人)	停止台数 (基)	閉じ込め 台数(基)					
川崎区	130	67,520	190	56,950	/	/	/	0	*	60,200	59,490	26,720	600	225	900	1,124	90	1,490	*					
幸区	30	32,950	50	29,530	/	/	/	0	0	27,900	27,080	7,900	280	29	117	146	20	550	0					
中原区	30	35,410	40	19,250	/	/	/	0	0	28,370	16,660	8,560	280	31	125	156	20	970	*					
高津区	30	30,420	40	12,920	/	/	/	0	10	23,590	14,630	5,000	240	17	69	86	10	870	*					
宮前区	30	25,590	30	11,310	/	/	/	0	0	19,970	9,160	2,430	200	8	31	39	10	580	0					
多摩区	20	14,190	50	12,200	/	/	/	0	0	10,550	1,900	1,900	110	7	27	33	*	470	0					
麻生区	20	11,030	40	7,000	/	/	/	0	0	8,950	2,730	1,330	90	5	20	25	*	360	0					
市合計	280	217,090	430	149,170	2,380	61,780	115,770	0	10	179,520	131,640	53,850	1,800	322	1,288	1,609	150	5,280	*					

交通等

全市	道路橋		鉄道		港湾		医療機能		帰宅困難者		経済被害	
	大規模 損傷 (箇所)	1日後 不通路線 (路線数)	被害 バス (バス数)	1~3日 間入院者 (人)	川崎市 から帰宅 (人)	川崎市へ 帰宅 (人)	直接経済 被害 (億円)					
川崎市	0	1	14	6,490	443,410	502,340	25,607					

※冬18時の想定。合計は四捨五入の関係で合わない場合があります。  
 ※交通等の一部の被害を除き、1~4の数値の場合\*標記としています。

~基礎資料~

総世帯数と時間帯別人口

	平成20年9月現在							
	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	全市計
総世帯数	110,037 (16.9%)	70,031 (10.8%)	112,504 (17.3%)	99,011 (15.2%)	91,409 (14.0%)	98,126 (15.1%)	69,575 (10.7%)	650,693 (100%)
5時	217,098 (15.7%)	150,404 (10.9%)	222,485 (16.1%)	210,167 (15.2%)	214,168 (15.5%)	203,220 (14.7%)	163,114 (11.8%)	1,380,656 (100%)
12時	257,520 (21.9%)	129,185 (11.0%)	198,052 (16.9%)	170,150 (14.5%)	145,518 (12.4%)	154,901 (13.2%)	119,755 (10.2%)	1,175,081 (100%)
18時	267,599 (19.6%)	149,484 (10.9%)	226,127 (16.5%)	201,729 (14.8%)	185,958 (13.6%)	188,629 (13.8%)	147,908 (10.8%)	1,367,434 (100%)

全建物棟数と内訳

	平成20年3月現在							
	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	全市計
総数	45,694 (18.8%)	23,974 (9.9%)	35,441 (14.6%)	32,286 (13.3%)	33,174 (13.7%)	37,176 (15.3%)	34,893 (14.4%)	242,638 (100%)
木造	26,428 (15.9%)	16,483 (9.9%)	22,877 (13.8%)	22,235 (13.4%)	24,360 (14.6%)	26,767 (16.1%)	27,226 (16.4%)	166,376 (100%)
R C造	4,511 (18.9%)	1,735 (7.3%)	3,841 (16.1%)	3,386 (14.2%)	3,607 (15.1%)	3,748 (15.7%)	3,062 (12.8%)	23,890 (100%)
S造	14,755 (28.2%)	5,756 (11.0%)	8,723 (16.7%)	6,665 (12.7%)	5,207 (9.9%)	6,661 (12.7%)	4,605 (8.8%)	52,372 (100%)

※R C造・・・鉄筋コンクリート造、S造・・・鉄骨造

(3) 東京湾北部地震

地震動 建物被害

区	震度 震度範囲	揺れ		液状化		急傾斜地崩壊		津波				合計		地震火災	
		全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	床上浸水 数(棟)	床下浸水 数(棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	出火 件数(件)	延焼 棟数(棟)
川崎区	5強-6強	4,390	9,120	290	510	0	0	0	0	0	0	4,680	9,630	20	1,800
幸区	5強-6弱	490	3,070	80	190	0	0	0	0	0	0	580	3,250	*	400
中原区	5強-6強	1,040	4,690	130	310	*	*	0	0	0	0	1,170	5,000	10	670
高津区	5強-6強	470	3,120	10	40	40	90	0	0	0	0	520	3,260	10	250
宮前区	5強-6強	130	1,450	0	*	20	40	0	0	0	0	150	1,490	*	140
多摩区	5強-6弱	100	1,410	*	10	10	20	0	0	0	0	110	1,440	*	170
麻生区	5弱-6弱	40	620	0	0	10	20	0	0	0	0	50	650	*	150
市合計	5弱-6強	6,670	23,490	510	1,050	70	170	0	0	0	*	7,260	24,710	50	3,560

人的被害

区	建物倒壊				急傾斜地崩壊		屋外落下物		家具転倒		ブロック塀		火災		津波		合計		り災世帯					
	死者 (人)	負傷者(人)			死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者	負傷者	全壊世帯	半壊世帯	焼失世帯	床上浸水世帯
川崎区	110	80	190	1,610	0	0	0	20	*	50	*	60	26	460	0	0	140	2,460	10,830	22,270	4,320	0	10	
幸区	10	10	30	440	0	0	0	*	*	20	*	30	6	40	0	0	20	570	1,660	9,350	1,160	0	0	
中原区	30	30	60	810	0	0	0	10	*	30	*	60	10	70	0	0	40	1,050	3,630	15,570	2,130	0	0	
高津区	10	10	30	470	*	30	0	*	*	30	*	40	*	20	0	0	20	640	1,590	9,910	760	0	0	
宮前区	*	*	10	190	*	10	0	0	*	20	*	40	*	10	0	0	10	290	410	4,080	380	0	0	
多摩区	*	*	10	180	0	10	0	*	*	10	*	30	*	20	0	0	10	250	300	3,780	450	0	0	
麻生区	*	*	*	60	0	10	0	0	*	10	*	20	*	10	0	0	10	120	100	1,290	290	0	0	
市合計	170	140	330	3,770	*	50	0	30	10	170	10	270	50	620	0	0	240	5,370	18,520	66,240	9,480	0	10	

ライフライン

区	上水道		下水道		通信・電力			都市ガス		LPガス		生活支障等			災害用トイレ			災害廃棄物			自力脱出		エレベータ停止
	被害数 (箇所)	断水世帯 (1~3日後) (世帯)	被害数 (箇所)	機能喪失世帯 (1~3日後) (世帯)	電柱被害 (本)	不通台数 (台)	停電件数 (件)	供給停止 件数(件)	ガスボンベ 被害 (世帯)	1~3日後 (人)	10日後 (人)	28日後 (人)	需要基数 (1~3日後) (基)	可燃物 (千トン)	不燃物 (千トン)	合計 (千トン)	困難者 (人)	停止台数 (基)	閉じ込め 台数(基)				
川崎区	110	59,800	170	51,950	/	/	/	0	*	53,380	50,470	22,920	530	183	730	913	70	1,530	*				
幸区	20	27,460	30	27,100	/	/	/	0	0	22,690	14,660	5,610	230	21	82	103	10	540	0				
中原区	30	36,980	40	18,700	/	/	/	0	*	30,620	18,270	10,120	310	36	143	179	20	970	*				
高津区	30	27,380	40	10,630	/	/	/	0	0	21,560	11,070	4,690	220	15	61	77	10	880	*				
宮前区	20	18,650	20	8,200	/	/	/	0	*	14,670	2,300	1,780	150	5	22	27	*	570	0				
多摩区	10	6,660	30	8,910	/	/	/	0	0	5,600	1,430	1,430	60	4	17	21	*	460	0				
麻生区	10	2,600	10	2,530	/	/	/	0	0	2,810	860	860	30	3	10	13	*	350	0				
市合計	230	179,540	340	128,010	2,190	54,890	102,850	0	20	151,320	99,060	47,410	1,510	266	1,066	1,332	120	5,300	*				

交通等

全市	道路橋		鉄道		港湾		医療機能		帰宅困難者		経済被害
	大規模 損傷 (箇所)	1日後 不通路線 (路線数)	被害 バス (バス数)	1~3日 間入院者 (人)	川崎市 から帰宅 (人)	川崎市へ 帰宅 (人)	直接経済 被害 (億円)				
川崎市	0	0	6	5,380	443,410	502,340	20,857				

※冬18時の想定。合計は四捨五入の関係で合わない場合があります。  
 ※交通等の一部の被害を除き、1~4の数値の場合\*標記としています。

~基礎資料~

総世帯数と時間帯別人口

	平成20年9月現在							
	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	全市計
総世帯数	110,037 (16.9%)	70,031 (10.8%)	112,504 (17.3%)	99,011 (15.2%)	91,409 (14.0%)	98,126 (15.1%)	69,575 (10.7%)	650,693 (100%)
5時	217,098 (15.7%)	150,404 (10.9%)	222,485 (16.1%)	210,167 (15.2%)	214,168 (15.5%)	203,220 (14.7%)	163,114 (11.8%)	1,380,656 (100%)
12時	257,520 (21.9%)	129,185 (11.0%)	198,052 (16.9%)	170,150 (14.5%)	145,518 (12.4%)	154,901 (13.2%)	119,755 (10.2%)	1,175,081 (100%)
18時	267,599 (19.6%)	149,484 (10.9%)	226,127 (16.5%)	201,729 (14.8%)	185,958 (13.6%)	188,629 (13.8%)	147,908 (10.8%)	1,367,434 (100%)

全建物棟数と内訳

	平成20年3月現在							
	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	全市計
総数	45,694 (18.8%)	23,974 (9.9%)	35,441 (14.6%)	32,286 (13.3%)	33,174 (13.7%)	37,176 (15.3%)	34,893 (14.4%)	242,638 (100%)
木造	26,428 (15.9%)	16,483 (9.9%)	22,877 (13.8%)	22,235 (13.4%)	24,360 (14.6%)	26,767 (16.1%)	27,226 (16.4%)	166,376 (100%)
R C造	4,511 (1.9%)	1,735 (7.3%)	3,841 (16.1%)	3,386 (14.2%)	3,607 (15.1%)	3,748 (15.7%)	3,062 (12.8%)	23,890 (100%)
S造	14,755 (28.2%)	5,756 (11.0%)	8,723 (16.7%)	6,665 (12.7%)	5,207 (9.9%)	6,661 (12.7%)	4,605 (8.8%)	52,372 (100%)

※R C造・・・鉄筋コンクリート造、S造・・・鉄骨造

## 5. 調査体制

今回の地震被害想定調査においては、調査の進め方、被害想定の手法、調査結果等について、学識経験者からなる「川崎市防災対策検討委員会地震被害想定・地震防災戦略部会」を設置して審議しました。個別の技術課題については、部会の下に担当のワーキンググループを設けて検討しました。

### 川崎市防災対策検討委員会地震被害想定・地震防災戦略部会 委員

(敬称略五十音順)

- |       |                              |
|-------|------------------------------|
| 加藤孝明  | 国立大学法人東京大学大学院工学系研究科 助教       |
| 桑野玲子  | 国立大学法人東京大学生産技術研究所 准教授        |
| 腰原幹雄  | 国立大学法人東京大学生産技術研究所 准教授        |
| 庄司 学  | 国立大学法人筑波大学大学院システム情報工学研究科 准教授 |
| 杉原英和  | 神奈川県温泉地学研究所 企画調整担当部長         |
| ○田中 淳 | 国立大学法人東京大学大学院情報学環 教授         |
| 中埜良昭  | 国立大学法人東京大学生産技術研究所 教授         |
| 藤原広行  | 独立行政法人防災科学技術研究所 プロジェクトディレクター |
| 古村孝志  | 国立大学法人東京大学大学院情報学環／地震研究所 教授   |
| 村尾 修  | 国立大学法人筑波大学大学院システム情報工学研究科 准教授 |
| ◎目黒公郎 | 国立大学法人東京大学生産技術研究所 教授         |

◎部会長、○副部会長 (部会長代理)



《参考》 「震度6強！その時あなたは？」

震度と揺れ等の状況（概要）

<p><b>0</b> [震度0] 人は揺れを感じない。</p>	<p><b>1</b> [震度1] 室内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。</p>	<p><b>2</b> [震度2] 室内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。</p>	<p><b>3</b> [震度3] 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。</p>
--------------------------------------	---	---	--

**4** [震度4]

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。

**6弱** [震度6弱]

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

耐震性が高い      耐震性が低い

**5弱** [震度5弱]

- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

**6強** [震度6強]

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

耐震性が高い      耐震性が低い

**5強** [震度5強]

- 物につかまらなると歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

**7** [震度7]

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに増える。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

耐震性が高い      耐震性が低い

**地震が起きたら**      **あわてず、まず身の安全を!!**      **緊急地震速報を見聞きしたら**

- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難
- 運転中は、ハザードランプを点灯し、緩やかに減速
- あわてて外に飛び出さない（落下物や車が危険）
- 近づくな、門や扉、自動販売機やビルのそば
- 揺れがおさまってから、あわてず火の始末
- 海岸でぐらっときたら高台へ
- あわてた行動、けがのもと

家屋の耐震化や家具の固定など、日頃から地震に備えましょう!!

川崎市地震被害想定調査報告書(概要版)

平成22年3月発行

発行 川崎市(総務局危機管理室)  
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地  
Tel 044-200-2850  
Fax 044-200-3972  
E-mail: 16kiki@city.kawasaki.jp